

山辰組、小規模現場に対応

「モヤッシー」小型版 開発 刈り草の高速焼却装置



刈り草を焼却する「モヤッシー」の小型化を進めた馬淵健社長(左)ら＝揖斐郡大野町稲畑、山辰組

人力で組み立て可能

総合建設業の山辰組(揖斐郡大野町稲畑、馬淵健社長)は、刈り草を高温焼却する同社製の高速焼却装置「モヤッシー」の小型版の商品を開発した。焼却能力は同じで、人力での移動や組み立てが可能になる。小規模の現場にも対応できるため、大型重機が搬入できない場所などでの需要を見込む。

モヤッシーは、鉄製の装置 0.500度を大幅に超えるに草を置き、焼却部にコンブ 800℃で焼却し、煙のレッサーで圧縮空気を直接吹 発生も大きく軽減。作業日数 ぎ付けて完全燃焼させる仕組みが短縮し、働き方改革にもつみ。従来の野焼きの温度40℃ ながっている。

(湯浅裕作)

従来品は根尾川堤防の除草作業に携わる同社が開発し、現在は全国で6社が使用している。最大で幅3.5m、奥行き4.5mと場所を取るため、運搬に重機や大型車が必要で、組み立てには2〜3時間かかるため、小型化を進めてきた。

小型のモヤッシーは、幅1.5m、奥行き2mで、ほとんどの部品を人力で30〜40分で組み立てられる。軽トラックでも運搬でき、小規模の除草や焼却場所が分散している現場、大型重機の搬入が困難な場所に適している。

刈り草を焼却せずに処理場に運ぶ場合、近年の運搬費用の上昇で数百万円近くのコストがかかることもあるという。既に県内外の数社から引き合いがあり、月ごとのレンタルでの貸し出しプランを検討している。馬淵社長は「小型化の要望もあり、開発した。導入のしやすさをPRしていきたい」と話している。